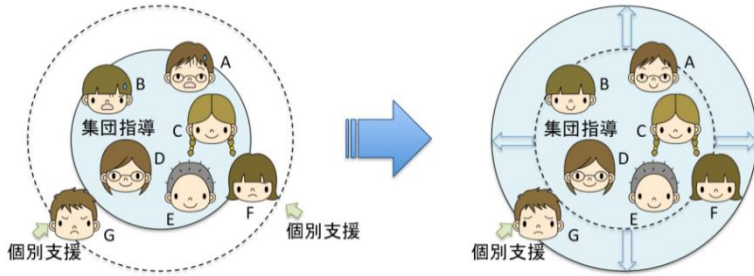


ここがポイント！授業づくり

今回のテーマ

「特別支援教育の視点を活かした授業づくり」

学級にはいろいろな個性をもった児童生徒がいます。学習上や行動上の困難があり、教育上特別な支援を必要とする児童生徒もいます。従って、児童生徒一人一人の実態を把握し、個に応じた指導をすることが必要であることは言うまでもありません。特別支援の視点を活かした授業づくりにより、すべての児童生徒に分かりやすい授業づくりをすることをまずは大切にしましょう。



生徒指導リーフ3「発達障害と生徒指導」国立教育政策研究所

上の図のAからEまでの児童生徒には集団指導をし、F・Gには個別支援をするという考え方ではなく、AからGまでのすべての児童生徒に分かりやすい授業（集団指導）をし、さらに必要な時には個別支援をするという考えで、授業を組み立てます。

「集団指導」と「個別支援」が必要

①「集団指導」に基づく対応

「つまずきやすい」児童生徒だけでなく、すべての児童生徒が互いの特性等を理解し合い、助け合って共に伸びていこうとする集団づくりを進める、わかりやすい授業づくりを進める等

②「個別支援」に基づく対応

「つまずきやすい」児童生徒に対して、個に即した助言や支援を行う、取り出し授業や補習授業を行う等

集団指導の充実がポイント

京都府丹後教育局
学校教育担当
令和2年9月発行
授業力UP研修4

この資料は、教職経験1～6年目（ステージ1）の先生方を主な対象として作成しています。他のステージの先生方にとっても、御自身の日々の授業実践を振り返っていただくきっかけとなれば幸いです。



すべての児童生徒に分かりやすい授業にするには、どのようなことに気を付けたらいいのでしょうか。

授業づくりに、特別支援教育の視点を加味し、発達障害等のある児童生徒が学びやすいように授業を改善する、それが結果的に**すべての児童生徒に分かりやすい授業**になります。

【授業づくり】

- ねらいを明確にし、児童生徒に分かるように示す。
- 児童生徒が学習の見通しをもてるようにする。
- テンポよく、ショートサイクルで授業を組み立てる。
- 視覚的な手がかりを示す。（整理された板書など）

「児童生徒がわかりやすいように」がポイントです。先生方が教えやすくするために指導を工夫したり、教具を用意したりするものではありません。**児童生徒の目線に立って**、「どこが分かりにくいのか」「分かりやすくするためにはどのような展開がよいか、どんな教具が必要なのか」を考えましょう。

指導も支援も、児童生徒の実態把握からスタートします。

まずは「実態をつかむこと」それから「実態を踏まえた指導や支援」を考えましょう。

【指導の基礎】

- チャイムと同時に授業を始め、チャイムと同時に授業を終える。
- 指示は端的に、短い言葉です。活動を止めて、集中させてから指示をする。
- 児童生徒の机まわりを整理整頓させ、学習しやすい環境を整える。

